

いま再び、

名護屋に黄金の茶室がよみがえる。

豊臣秀吉は、肥前名護屋の地に

大陸への出兵拠点となる城を築き、

全国の諸大名たちを集めて、まちをつくりました。

世界最大規模を誇った、

7年間のみ存在した、人口20万人を超える幻の都市。

様々な人々が集い、文化が花開いた場所。

そこはまさに日本文化発展の「はじまりの地」。

名護屋城でも実際に披露された黄金の茶室は、

この地に集った先人たちの想いや

当時の息づかいを今に伝えてくれるものです。



はじまりの
名護屋城。
The Beginning of New Cultural History from NAGoya



Access

- JR西唐津駅から昭和バス「名護屋城博物館入口」下車徒歩5分
- 多久ICから車で約70分



佐賀県立 名護屋城博物館

SAGA PREFECTURAL NAGOYA CASTLE MUSEUM

〒847-0401 佐賀県唐津市鎮西町名護屋1931-3

TEL.0955-82-4905

開館時間 | 9:00 - 17:00

休館日 | 月曜日(祝日の場合は翌日)・年末年始(12.29-1.3)

※その他、臨時休館・追加イベント日などあり。詳しくはWEBでご確認ください。

観覧料 | 無料(特別企画展は有料)

駐車場 | あり(無料)

● イベントなど詳しい情報は

名護屋城博物館

<https://saga-museum.jp/nagoya/>



令和3年度文化庁文化資源活用事業費補助金(Living History促進事業)

黄金の茶室、 再び名護屋に。

- A JAPANESE CLASSIC TEA ROOM -

Golden Tea Room

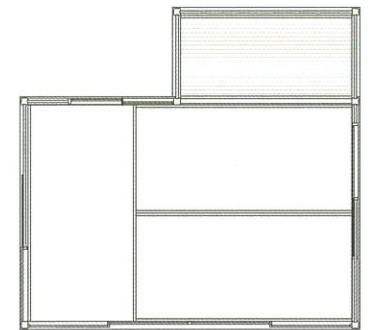
Nagoya Castle Museum



佐賀県立 名護屋城博物館
SAGA PREFECTURAL NAGOYA CASTLE MUSEUM

この茶室が初めて史料に登場するのは、秀吉が関白となった天正13(1585)年のこと。その後、京都の御所や大坂城などで使用されています。

そして天正20(1592)年、名護屋城に着陣した秀吉は、この茶室を運ばせ、茶会や外国使節の応接に使用しています。博多の商人・神屋宗湛が記した名護屋城での茶会の記録「宗湛日記」によると、茶室は三畳で、柱や敷居・鴨居や壁、障子の骨・板もすべて金、障子には赤い紋紗(紋を織り出した薄い絹布)が張られ、畳表は猩々緋(鮮やかな深紅色)だったと伝わっています。



横幅：2985mm
奥行：2839mm
高さ：1960mm

茶室観覧無料

自由にご見学いただけます

体験プログラム

茶室の空間に浸りながら
お茶をお楽しみください

要事前
予約

※開催日など詳細は名護屋城博物館ホームページをご確認ください



名護屋城博物館 黄金の 茶室

金銀の国内産出量が飛躍的に増大したこの時代、天下人・秀吉のもとには、莫大な富が集まりました。

秀吉の身のまわりを彩った絢爛豪華な品々や大名・公家に金銀を配った「金賦り」、大坂城・聚楽第そして名護屋城などを飾った豪華な金箔瓦や障壁画など、秀吉は美しく輝く黄金を効果的に使用しています。そして、黄金に包まれたこの茶室も、天皇・公家や大名、そして宣教師や外国使節などに対し、政治・外交上の重要な場面で披露されました。

秀吉にとって、「黄金の茶室」は自らの権威と財力を見せつけ、見る者を圧倒する、とっておきの「舞台装置」だったといえるでしょう。

ENJOY! NAGOYA CASTLE MUSEUM